



“子育てするなら、立山町で”と誇れるまちに 誠心・誠意、みなさんとごいっしょに



日本共産党 町議会議員

ごとう智文

子どもが元気に遊び、学び、輝く町は
活力あるまちづくりの基本です

少子化が進む中、立山町でも人口減少が止まりません。若い人が暮らしたくなるまち、若いご夫婦が安心して子どもを産み育てられるまちづくりがもとめられています。

中学三年生までの医療費の完全無料化をめざします

町長は12月議会で、通院も中学3年生まで医療費助成を広げると述べましたが、個人負担は現在の「月1000円まで」から、「一割負担」にすると言っています。町長は、「必要以上の受診をおさえるためだ」と親の責任にしていますが、ほとんどの自治体ではすでに完全無料になっており、必要以上に受診が増えることはありません。逆に、無料化すれば軽症のうちに治療ができることで、町の医療費抑制につながります。

保育料、学校給食費などの負担軽減にとりくみます

現在一部助成を行っている第3子の保育料を、全額無料にするよう求めます。また、学校給食費も、第1子、第2子は月額1000円補助、3子以降は無料にしている自治体が県内にもあります。

若者、新婚家庭の定住対策を強めます

町外からの転入者に、転入家族奨励金、新婚家庭に月額1万円の家賃補助を創設します。また、住宅取得奨励金など若者の定住対策にとりくみます。第3子以降の出産祝い金制度をつくります。

固定資産税軽減にとりくみます

固定資産税引き上げの理由だった教育施設の充実は立山北部小学校の建設で一段落。毎年約5000万円の住民負担は軽減し、元に戻すべきです。

これまでも

みなさんの声で

町政を動かしてきました



○中学校3年生までの入院医療費を無料化

3年前、中学生までの無料化を求める請願書がみなさんの署名1,091筆が添えられて町長に提出されました。ごとう議員だけが賛成して、他の議員は全員反対して不採択に。それでも粘り強く議会内外で無料化を求めた結果、入院だけが医療費を無料化しました。

○全小中学校の普通教室にエアコンが導入

厳しい暑さの中では、大人でも仕事はかどりません。勉強ならなおのことです。みなさんの声で実現しました。

○元気交流ステーション内に大きな音が出せる音楽室が設置

生徒も気がねなくバンド練習ができる音楽室が、高校生らの要望で設置されることに。

○就学援助の項目が拡大

これまで支給されていた項目に加えて、PTA会費、生徒会費が追加されました。